

先輩医師からのメッセージ

後期研修はぜひ大学病院で！

平成16年3月 弘前大学卒
整形外科 医員 田中 直



私が弘前大学医学部を卒業した平成16年は、ちょうど現在の卒後臨床研修制度が必修化された年でした。臨床研修終了後、大学病院に戻って研修する医師もいれば、市中の臨床研修先の病院に残って研修を続ける医師、あるいは「後期研修医募集」という資料を参考に、自ら選んだ病院を転々としながら研修を行う医師など、医学部卒業後の進路は、それまでと比べかなり多様化してきたのではないかと思います。

私は、卒後臨床研修は大学病院ではなく、出身地である青森県内の市中病院を選択しました。非常に救急患者の受け入れがさかんな病院で、整形外科での研修でも、交通事故や転落事故などで多発外傷を負った患者さんや、開放骨折ですぐに手術が必要な患者さん、頸髄損傷の患者さんの初期対応から周術期管理、リハビリテーションに及ぶまで、非常に多くの経験ができたと思っています。

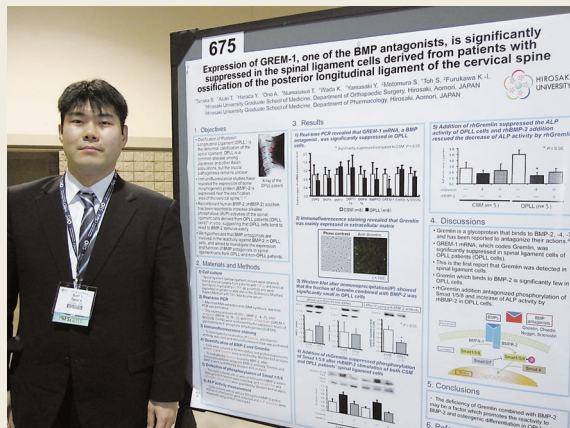
しかし、ある程度の経験をして慣れれば慣れるほど、より深く、時間をかけてもっと専門的な知識や技術を学びたいと思うようになりました。弘前大学附属病院は青森県内の医療の中心的な役割を担っているとんでも過言ではありません。整形外科に関しては、手の外科、スポーツ、脊椎、股関節、腫瘍の各診療グループを構成し、市中病院では人的・技術的・設備的に行うことが困難な難易度の高い手術も行っています。手術に際しては、毎回カンファレンスが行われ、自分が経験する1つ1つの症例について時間をかけてじっくり勉強し、各分野の経験豊富な先生方からいろいろなお意見をいただく時間的な余裕があります。また、大学病院での研修とはいっても、関連病院に出向していわゆる「プライマリケア」を広く学ぶ期間も準備されています。

私は弘前大学医学部附属病院の「高度医療人GP（大学病院連携型高度医療人要請事業）」による外国研修参加旅費支援事業を利用させていただき、研修中に海外の学会へ参加させていただきました。このように、学会発表や論文執筆などの研究活動を通じて、専門医としてどのように最新の知識や技術を開拓していくか、という姿勢を学ぶ環境が整っているのも大学病院ならではのことだと思います。

各診療科における専門医を育成する環境は、やはり昔から教育・研究の実績がある大学病院が最も整っています。臨床研修後の進路でお悩みの先生、専門研修はぜひ大学病院で行うことをお勧めします！



術中写真



国際学会（Orthopaedic Research Society 2011 annual meeting; Long Beach）への参加

大学病院での後期研修のメリット、デメリット

平成18年3月 弘前大学卒

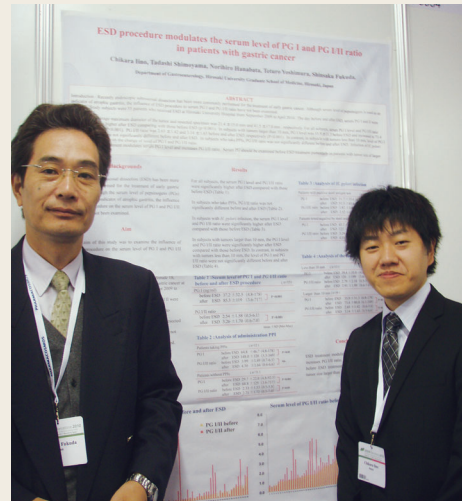
消化器内科／血液内科／膠原病内科 医員 飯野 勢



私は平成18年に弘前大学を卒業後に青森県立中央病院で2年間初期研修を行いました。その後に三沢市立病院を経て、大学病院で後期研修を行いました。昨年、大学院の研究の一環で、バルセロナのUnited European Gastroenterology Weekで発表する機会をいただき、貴重な経験をさせていただきました。今回、アドバイスということで自分の思うところを少し書かせていただきます。大学病院のメリットは、専門的な診療を経験できること、研究や学会活動を行えることです。デメリットは一般的な疾患の経験が少なくなること、自分で決定する機会が少なくなることです。臨床に関して、早く一人前になるという点では大学病院は勧められないかもしれません。しかし、医師としての長い人生を考えた時に、若いうちに研究や学会活動を行うことは、大きな財産になると思います。違った角度から、病態へアプローチする見方を養う時間も大切であると思います。その機会を与えてくれるのが大学での後期研修だと思います。今は初期研修終了後も選択肢が多い分悩むことが多いと思いますが、目先の事にとらわれず、長い目で自分の将来について考え、自分の納得いく道を選んで下さい。



内視鏡検査



UEGW参加

専門研修を大学でやろう！

平成19年3月 弘前大学卒

呼吸器外科／心臓血管外科 助手 福田和歌子



私は学士入学の第1期生として弘前大学医学部に入学した。もともと発展途上国の母子保健に興味があり、卒業後は外国に行くことしか頭になかった。アフリカの大地で産婦人科医または小児科医として働くことを夢見ていた。しかし5年生の臨床実習で心臓血管外科をまわった時、「アフリカ」は私の頭から消えてしまった。とにかく手術が楽しかった。手術によって元気に回復していく患者さんの姿を見て、また、指導医達の真剣に医療に取り組む姿を見て、「これだ」と思った。「私はこの人達と一緒に仕事がしたい」と思ったのである。

前置きが長くなったが、私は初期研修も専門（後期）研修も大学病院を選択した。それは、私が師として尊敬できる先輩Dr達が心臓血管外科にいたからだ。大学病院における専門研修のメリットは以下の通りである。

- ① 症例数が多い。重症例を経験することにより、「応用力」が身に着く。
- ② 手術、術前・術後管理において徹底した指導を受けることができる。
- ③ 総回診やカンファレンスの体制が整っているため、一つの症例を深く掘り下げ、あらゆる角度から検討することができる。
- ④ 学会・研究会に参加する機会が多く与えられ、学術面においても力がつく。
- ⑤ 論文の作成においてもきちんとした指導を受けることができる。

心臓血管外科では、個人の特技や能力を最大限に生かして仕事をさせてもらうことができる。仕事は体力的にも精神的にも決して楽ではないが、やりがいがある。専門研修に大学病院を選んで私は満足しているし、そして日々、私を指導し、サポートしてくれている先輩Dr達には心から感謝している。

人生において“よい師との巡り合い”はその人の将来を左右する。後輩の皆さんには、人との出会いは大切にして欲しいと思っている。



後期研修1年間を終えて

平成20年3月 弘前大学卒

内分泌内科／糖尿病代謝内科／感染症科 医員 山形 聡



昨年4月に、2年間の市立札幌病院での研修を終えて弘前に戻ってきました。現在、医員としての勤務の傍ら、大学院生でもあります。

札幌での初期研修は、同期の仲間にも恵まれ、先輩方には本当に厳しく指導されました。元々は腎移植関連の勉強をしたいと思い市立札幌病院への就職を決めたため、3年目からの進路については、泌尿器科も諦め切れず、内分泌との間で非常に悩んでいました。尊敬する先生もいましたし、北海道に残るという選択肢もありました。しかし研修2年目の夏、部活のOBでもあるN先生に相談させて頂いた折に「やはり地元で、内科医として働こう」と決めました。また、この頃、研究への憧れも日に日に膨らんでいました。

大学病院の特長は、ノウハウを持った教育機関であることだと思います。専門医・指導医が多く、専門性を高める上では、おそらく市中病院にいるよりもかなり速いスピードで学べるのではないのでしょうか。昨年は、学会や研究会で発表する機会を9回ほど（うち市立札幌病院で2回）頂きました。これらにかかる旅費等の経費の大部分は、教室や大学からの支援によるものが大きく、非常に感謝しています。発表の準備段階で読んだ大量の論文やあれこれ思考した過程、もちろん病棟患者さんに関しての日々の勉強が、何よりこの1年間の収穫と感じています。

以上、大学病院の良い点をアピールできたかどうか…。心配されている方もいらっしゃるかと思います。収入面も問題ありません。

研究も始まったばかりであり、先生方のご指導を受ける中で、日々少しでも早く成長したいと努力しているところです。内分泌代謝内科は情に篤く温かい雰囲気が特長です。興味を持ってくださった方は、ぜひ一度ご連絡ください。

